

# 日蓮宗寺院所蔵仏像の銘文

——山梨県富士川町善国寺・京都市頂妙寺・南アルプス市妙了寺——

寺 尾 英 智

身延山大学東洋文化研究所の仏像制作修復室では、所蔵者からの依頼により仏像や厨子、建築彫刻などの修理を行っている。修理する過程において、様々な銘文が見出される場合がある。これらの銘文は、当該の仏像や厨子、彫刻の造立や修理の年代を明らかにするだけでなく、寺院や教団、更に地域の歴史を究明する上においても貴重な資料である。そこで、仏像制作修復室における修理により見出された銘文の中から、日蓮宗寺院所蔵の仏像について報告者が実査したものを提示したい。なお、銘文を掲出した諸像は、全て寄木造である。

## 一 日蓮聖人坐像 山梨県南巨摩郡富士川町 善国寺所蔵

〈像内背面・墨書〉

寛永十一年<sup>甲戌</sup>二月吉日

七条大佛師

身延山三而少弍作也

南無妙法蓮華

日蓮宗寺院所蔵仏像の銘文(寺尾)

經

(異筆)

「宝永二年乙酉八月吉日

京都

松原新町東へ入町

末家川嶋太左工門

さいく也」

〈像内前面・墨書〉

南無妙法蓮華

寛永十一年ニ 經

七条大佛師

少貳作也

(異筆)

「宝永二年酉ノ八月吉日ニ

南無妙法蓮華經

さい

く也」

〈頭部内前面・墨書〉

寛永十一年 甲戌

身延山ニテ

七條大佛師

少貳作是ヲ

二月吉日

〈頭部内背面・墨書〉

南無妙法蓮華經

〈像底・朱書〉

寛永十一<sup>甲</sup>年<sup>□</sup>年  
(以下欠失)

□<sup>□</sup>佛師

□月吉□身延  
.....

〈持經・墨書〉

妙法蓮華經如来壽量品第十六

每自作是念以何令衆生

得入无上道速成就佛身

宗祖大菩薩御手入

嘉永三庚戌八月日

日蓮宗寺院所藏佛像の銘文(寺尾)

遠隆院日雄

敬拝

本像は、僧綱衣に七条袈裟を着して坐し、経巻を両手で広げ持つ、読経像である<sup>(1)</sup>。作者である七条大仏師少弐は、南アルプス市経石寺に所蔵される日蓮聖人坐像の作者七条大仏師少弐康與と同一人物であると考えられる<sup>(2)</sup>。本像には身延山において制作されたことが記されており、京都の仏師が地方へ下向して活動していたことを示す例として注意される。

本像を所蔵する善国寺は、身延山久遠寺の末寺である。造立の銘文には、本像の安置や、施主に関する記述は見られない。

像内銘文によれば宝永二年(一七〇五)、持経の銘文によれば嘉永三年(一八五〇)と、二度の修理が行われていることが判明する。持経の銘文を記した遠隆院日雄は、善国寺二十八世住持である<sup>(3)</sup>。

ところで、日蓮聖人坐像は、僧綱衣・七条袈裟に横被を着す場合が通例であるが、本像では横被を着さない。この様に日蓮聖人像における七条袈裟で横被を着さないという服制は、同時代の京仏師の作に類例が見られる。そこで管見の諸像を示すと、次の通りである。

所蔵	型式	仏師	年代
①増穂町善国寺	読経像	七条大仏師少弐	寛永十一年(一六三四)
②身延町積善坊	読経像	七条大仏師少弐康典 <sup>(奥カ)</sup>	寛永十二年(一六三五) <sup>(4)</sup>

③南アルプス市経石寺 説法像 七条大仏師少弐康与 寛永十四年（一六三七）

④鴨川市誕生寺 説法像 七条大仏師大藏卿音湛 慶安五年（一六五二）<sup>⑤</sup>

⑤南アルプス市妙経寺 読経像 七条大仏師康英 寛文七年（一六六七）<sup>⑥</sup>

⑥身延山奥之院 読経像 大仏師康与 （未詳）<sup>⑦</sup>

同様の服制をとる日蓮聖人坐像では、千葉県多古町日本寺所蔵像（読経像）が南北朝時代、十四世紀の作であり、<sup>⑧</sup>早い事例である。絵画では、市川市浄光院所蔵日蓮聖人画像が鎌倉時代の作であり、最も早い事例となる。日蓮聖人の像容については、絵画を含めて改めて検討の必要があろう。<sup>⑨</sup>

なお、積善坊所蔵像の銘文は「七條／大佛師／少貳康典之」と判読されているが、「典」は字形が類似した「與（与）」を誤読したものと考えられる。康与は、七条大仏師二十一代康正の弟子の康与にあたると思われる。<sup>⑩</sup>

## 二 日祝上人坐像 京都市左京区 頂妙寺所蔵

〈頭部内後面・墨書〉

康住法印

子少納言

七条大佛師

康巖作

慶長拾年六月吉日

〈像底底板・朱書〉

日蓮宗寺院所蔵仏像の銘文（寺尾）

日蓮宗寺院所藏仏像の銘文（寺尾）

七条大佛師

康巖作

〈台座上畳裏・墨書銘〉

文化四卯歲四月八日

再建之

願主堂守

一 要日經

三十二世

日近御代

○像内納入銘札 一枚

〈表・墨書銘〉

昭和廿四己丑年十月十二日

南無妙法蓮華經開山妙國院日祝上人報恩謝徳

聞法山第五十三世妙光院 六十六才 日澄（花押）

〈裏・墨書銘〉

慶長十年乙巳六月吉日七條大佛師康住法印子

少納言康巖大佛師謹刻文化四年丁卯四月八日

妙光院

日澄

当山第卅二世了光院日近上人御代天明大火後十四年 拜記

祖堂再建安置 願主堂守一要日經大徳也

昭和廿四年己丑十月十二日 京都大佛師第三世 倉橋成典<sup>四十四才</sup> 奉修覆之

日祝（一四三七―一五二三）は京都頂妙寺の開山であり、本像は開山や歴祖などの高僧像として位置づけられる。<sup>①</sup>

本像は、僧綱衣に七条袈裟・横被を着して坐し、右手に檜扇、左手に経巻を持つ、説法像である。像底の銘文が記された底板は後補材であると考えられることから、銘文も後銘であると判断される。

作者の康巖については、慶長元年（一五九六）の福岡市東光院所蔵薬師如来坐像をはじめ、慶長年間の活動が知られる。<sup>②</sup>

三 七面大明神倚像 南アルプス市上市之瀬 妙了寺所蔵

〈像底・墨書銘〉

妙了 □ □ 十五世

中道院

日秀（花押）

佛師 □

日蓮宗寺院所蔵仏像の銘文（寺尾）

○像内納入経 一卷

(表紙題箋)

「大乘妙典□」

奉造立

七面大明神一体

奉祈誦

惣持品□

祈誓頌□

国家安□

(金力)

佛法流布

當寺繁栄

衆檀長□

寺内永□

無火災難□

堂宇建立□

任意祈□

自他□

悉地成「

仰願者冥「

利有信無信共

期佛恵「

元禄五<sup>壬</sup>  
申「

十月十五「

高峯山妙了寺

第十<sup>五</sup>  
「

中<sup>道</sup>  
「

日「

衆生無邊誓「

(以下、未開披につき未詳)

(包紙)  
「奉  
□

一部一卷」

七面大明神は、日蓮宗独特の守護神である。<sup>(13)</sup>七面天女とも称されるように、像容は天女形で、右手に鍵を左手に宝珠を持つ。本像に銘文を記した日秀は中道院と号し、妙了寺十五世住持である。<sup>(14)</sup>像底の銘文は彩色の上に墨書されて

日蓮宗寺院所蔵仏像の銘文(寺尾)

いるが、彩色の剥落により一部が欠失している。像内納入経（縦六・九センチメートル）は料紙の一部が欠失しており、また経文の本文部分は水損のために開披することが困難である。<sup>(15)</sup>

七面大明神像は、倚像が主流であることが指摘される。<sup>(16)</sup> その他にも立像、半跏像、坐像の三型式が知られるが、作例の集成は行われていない。そこで参考のため、妙了寺像の制作年代である元禄を含め江戸中期に至る像について、管見に入ったものを示すことにする。

型式	所蔵	年代
立像	京都市右京区三寶寺	中正院日護作（一五八〇—一六四九） <sup>(17)</sup>
	宇陀市妙福寺	万治三年（一六六〇） <sup>(18)</sup>
	南房総市妙福寺	寛文五年（一六六五）
	京都市上京区本満寺	延宝四年（一六七六） <sup>(19)</sup>
	新宿区法善寺	江戸時代初期、伝中正院日護作 <sup>(20)</sup>
	赤穂市高光寺	元禄元年（一六八八）カ
	鎌倉市安国論寺	江戸時代 <sup>(21)</sup>
	東大阪市境智院	元禄八年（一六九五） <sup>(22)</sup>
	伊賀市上行寺	日春（一六二二—一七〇二）銘 <sup>(23)</sup>
半跏像	品川区本善寺	寛永三年（一六二六） <sup>(24)</sup>
	大田区実相寺	延宝四年（一六七六） <sup>(25)</sup>

倚  
像

京都市上京区法華寺 元禄二年（一六八九）<sup>(26)</sup>

江戸川区妙覚寺 元禄五年（一六九二）<sup>(27)</sup>

品川区本善寺 宝永三年（一七〇六）<sup>(28)</sup>

新宿区亮朝院 江戸時代、十七世紀<sup>(29)</sup>

山梨県身延町久遠寺 日潮（一六七四—一七四八）銘<sup>(30)</sup>

山梨県身延町七面山 江戸時代<sup>(31)</sup>

南アルプス市報恩寺 寛文九年（一六六九）<sup>(32)</sup>

南アルプス市円覚寺 延宝五年（一六七七）<sup>(33)</sup>

江戸川区城立寺 延宝六年（一六七八）<sup>(34)</sup>

鎌倉市妙本寺 延宝七年（一六七九）<sup>(35)</sup>

福山市妙顕寺 延宝八年（一六八〇）<sup>(36)</sup>

海老名市海源寺 延宝年間（一六七三—一八一）<sup>(37)</sup>

大阪府能勢町真如寺 元禄二年（一六八九）

川越市行傳寺 元禄五年（一六九二）<sup>(38)</sup>

豊岡市立正寺 元禄五年（一六九二）

いすみ市本顕寺 元禄五年（一六九二）

南アルプス市妙了寺 元禄五年（一六九二）

日蓮宗寺院所蔵仏像の銘文（寺尾）

日蓮宗寺院所蔵仏像の銘文(寺尾)

西尾市真正寺

元禄十一年(二六九八)<sup>(39)</sup>

南アルプス市妙太寺

元禄十四年(二七〇二)<sup>(40)</sup>

山梨県身延町覚林坊

宝永五年(一七〇八)<sup>(41)</sup>

常陸太田市久昌寺

日耀(一六三六―一九七)<sup>(42)</sup>銘

山梨県南部町源立寺

日脱(一六二六―一九八)<sup>(43)</sup>銘

山梨県富士川町七面堂

日現(一六三〇―一七一七)<sup>(44)</sup>銘

山梨県身延町智寂坊

日省(一六三七―一七二二)<sup>(45)</sup>銘

坐像

南アルプス市長遠寺

元禄十年(一六九七)<sup>(46)</sup>

伊勢原市法泉寺

元禄十二年(一六九九)<sup>(47)</sup>

江戸川区妙泉寺

元禄十七年(一七〇四)<sup>(48)</sup>

ここに集成した作例によれば、立像と共に半跏像が先行し、倚像が次第に主流になる様に見受けられる。また、坐像は少数であり、立像・半跏像・倚像に遅れて出現するといえる。ただし、坐像については、天文十三年(二五四四)の銘を持つ銅製神像が七面大明神像であるとされており、<sup>(49)</sup>像型式の変遷を明らかにするには更なる作例の集成と検討が必要であろう。

注

(一) 日蓮聖人坐像の典型的な形式には、読経像と共に、右手に檜扇或いは払子、左手に経巻を持つ説法像(折伏像と称する場合もある)の二型式がある。

- (2) 南アルプス市教育委員会編『祈りのよこがお——南アルプス市内仏像等悉皆調査報告書』(南アルプス市教育委員会、二〇一一) 二八〇頁・三九九頁。
- (3) 池上本門寺編『日蓮宗寺院大鑑』(池上本門寺、一九八二) 善国寺の項によれば、二十八世は遠光院日雄とあり「青柳昌福寺二四世へ」と注記される(三六七頁)。同書昌福寺の項では二十四世遠光院日放、嘉永四年(一八五二)二月十三日没とする(三六三頁)。
- (4) 山梨県南巨摩郡身延町教育委員会編『身延山久遠寺史料調査報告書』(山梨県南巨摩郡身延町教育委員会、二〇〇四) 一七三頁・口絵写真(図版40)。なお、正保二年(一六四五)釈迦如来立像(茂原市藻原寺所蔵、立正大学日蓮教学研究所編『藻原寺宝物目録——日向聖人第七〇〇遠忌』本山藻原寺、二〇一三、一一〇頁・二二二頁。同書では「兵部衛」と判読する)、同三年(一六四六)釈迦如来立像(南アルプス市経石寺所蔵、「祈りのよこがお——南アルプス市内仏像等悉皆調査報告書」二八二頁・四〇〇頁)の作者である七条大仏師兵部卿康与も、同一人物であると考えられる。
- (5) 誕生寺文書編纂会編『誕生寺文書——日蓮聖人門下諸寺文書集影』(誕生寺、一九九二) 二六三頁。
- (6) 『祈りのよこがお——南アルプス市内仏像等悉皆調査報告書』二〇六頁・三六四頁。
- (7) 『身延山久遠寺史料調査報告書』一八〇頁・口絵写真(図版46)。
- (8) 東京国立博物館編『大日蓮展——立教開宗750年記念』(産経新聞社、二〇〇三)、中尾堯他編『彫刻』図説日蓮聖人と法華の至宝第四卷(同朋舎メディアプラン、二〇一三) 一一二頁(浅見龍介氏執筆)。なお、神奈川県立歴史博物館編『鎌倉の日蓮聖人 中世人の信仰世界 特別展』(日蓮宗神奈川県第二部宗務所、二〇〇九)では、室町時代、十五世紀とする。
- (9) 坂輪宣敬『仏教美術の廻廊』(宝文館出版、一九八四)、浅見龍介「日蓮聖人の肖像彫刻」(『彫刻』)参照。
- (10) 『身延山久遠寺史料調査報告書』一八〇頁、鈴木麻里子「南アルプス市の仏像と神像」(『祈りのよこがお——南アルプス市内仏像等悉皆調査報告書』)三二頁。なお、『本朝大仏師正統系図并末流』(『墨水遺稿』巻第三収録により採録刊行本)の「康与」項には「康正弟子」「三位」と注記される(久野健編『江戸仏像図典』(東京堂出版、一九九四年)二九三頁)。
- (11) 開山や歴祖などの高僧像については、浅湫毅「日蓮宗寺院における肖像彫刻の重要性」(『彫刻』)参照。
- (12) 長谷川洋一「近世仏師事績データベース」(<http://www.bussshinet/search.cgi>) 2749。
- (13) 七面大明神とその信仰については、宮崎英修「日蓮宗の守護神——鬼子母神と大黒天」(平楽寺書店、一九五八)、里見泰穂「七面山信仰の形成」(望月敏厚編『近代日本の法華仏教』法華経研究Ⅱ、平楽寺書店、一九六八)、森宮義雄『七面大明神のお話』(七面大明神奉賛会、一九七二)、坂本勝成「江戸の七面信仰——高田・亮朝院の場合」(『日蓮教学研究所紀要』第三号、一九七六)、宮

- 崎英修編『鬼子母神信仰』民衆宗教史叢書第九卷（雄山閣、一九八五）、中尾堯『日蓮信仰の系譜と儀礼』（吉川弘文館、一九九〇）、望月真澄『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』（平楽寺書店、二〇〇二）、栗原啓允『七面信仰伝播についての一考案——新出の高岡大法寺所蔵絵曼荼羅を手がかりとして』（『日蓮仏教研究』第三号、二〇〇九）、望月真澄『身延山信仰の形成と伝播』（岩田書院、二〇一一）等を参照。
- (14) 日秀は正徳二年（一七一二）十一月八日、八十八歳で没。日蓮宗寺院大鑑編集委員会編『日蓮宗寺院大鑑』（大本山池上本門寺、一九八二）妙了寺の項（三九六頁）。
- (15) 本像は「祈りのよこがお——南アルプス市内仏像等悉皆調査報告書」には未収録。
- (16) 宮崎英修「鬼子母神信仰の研究」（『鬼子母神信仰』）三三九頁。
- (17) 日蓮宗事典刊行委員会編『日蓮宗事典』（日蓮宗宗務院、一九八二）口絵。
- (18) 立正大学日蓮教学研究研究所架蔵写真帳。
- (19) 立正大学日蓮教学研究研究所編『本満寺宝物目録』（本満寺、二〇一〇）六〇一七号。
- (20) 新宿未来創造財団新宿区立新宿歴史博物館編『新宿の文化財 新宿区文化財保護条例施行30周年記念 新宿文化財ガイド2013』（新宿未来創造財団新宿区立新宿歴史博物館、二〇一三）七〇頁。
- (21) 新倉日立監修・山田泰弘編『安国論寺資料輯——鎌倉名越松葉谷』（安国論寺、一九九七）一九・四七・二九八〜三〇〇頁。同書の図版解説では江戸前期作（一九頁）、「資料解説」では江戸期もかなり早い時点での造立か（二九九頁）、とする（何れも山田泰弘氏執筆）。
- (22) 鬼子母神立像と共に二体一具で岩座に安置される。
- (23) 立正大学日蓮教学研究研究所架蔵写真帳。
- (24) 『江戸仏像図典』一六一・一六三頁。
- (25) 東京都大田区史編さん委員会編『寺社Ⅰ』大田区史資料編（東京都大田区、一九八二）五七五頁。なお、同書には銘文が紹介されるが、図版は掲載されていない。
- (26) 楽浪文化財修理所編『文化財調査報告書』（妙喜山法華寺）一一〜一二頁。
- (27) 慶應義塾大学紺野敏文研究室・江戸川区教育委員会学習スポーツ振興課文化財係編『江戸川区の仏像・仏画』（江戸川区教育委員会、二〇〇四）四二〇〇九号。

- (28) 品川区教育委員会編『品川の仏像』（品川区教育委員会、一九九二年）二八二号。文化八年（一八一二）の再興時における銘文写は、宝永三年を寛永三年に誤る。
- (29) 『彫刻』一六二頁。
- (30) 『身延山久遠寺史料調査報告書』一四七頁。なお、同書には銘文が紹介されるが、図版は掲載されていない。
- (31) 『身延山久遠寺史料調査報告書』一八四頁・図版54。
- (32) 『祈りのよこがお——南アルプス市内仏像等悉皆調査報告書』二七五頁・三九六～三九七頁。
- (33) 『祈りのよこがお——南アルプス市内仏像等悉皆調査報告書』九五頁・三一〇頁。
- (34) 『江戸川区の仏像・仏画』二二〇～二二二号。
- (35) 『江戸仏像図典』一六二頁。
- (36) 寺尾英智編『西龍華妙性山妙顕寺寺宝集成』（赤星龍憲、二〇一三）一〇六頁。
- (37) 享保十七年（一七三二）七月七日付日完「七面大明神略縁起」（海源寺文書）。
- (38) 東京都大田区史編さん委員会編『寺社2 大田区史資料編（東京都大田区、一九八三）六九八頁。
- (39) 望月真澄編『一圓院日脱上人遺芳』（日蓮宗脱師法縁、一九九八）二二三頁。
- (40) 『祈りのよこがお——南アルプス市内仏像等悉皆調査報告書』二六九頁・三九三頁。
- (41) 『身延山久遠寺史料調査報告書』一五三頁・図版12。
- (42) 佐々博史編・石川泰道監修『久昌寺文書』（本山久昌寺、一九九七）一三七頁。
- (43) 『一圓院日脱上人遺芳』二二四頁。
- (44) 富士川町ホームページ (<http://www.town.fujikawa.yamanashi.jp/kaniko/meisho/bunkazai.html>)。
- (45) 『身延山久遠寺史料調査報告書』一六八頁・図版31。
- (46) 『祈りのよこがお——南アルプス市内仏像等悉皆調査報告書』一六四頁・三四五頁。
- (47) 伊勢原市教育委員会編『伊勢原の仏像——仏像等彫刻調査報告書』（伊勢原市教育委員会、二〇〇〇）二四五号。
- (48) 『江戸川区の仏像・仏画』二二〇〇七号。
- (49) 『身延山久遠寺史料調査報告書』一四九頁・図版7。

日蓮宗寺院所蔵仏像の銘文（寺尾）

〈謝辞〉 銘文の調査に当たり、修理を指導した柳本伊左雄教授、並びに修理を担当した森田信弘・依田司の両氏にご高配を頂いた。記して感謝申し上げます。

〈キーワード〉 七面大明神像、日蓮聖人像、日祝上人像